

科目名	栄養指導実習	科目分類	<input type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門教育科目
			<input type="checkbox"/> 卒業必修 <input checked="" type="checkbox"/> 栄養士必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Nutrition Education II	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年
ふりがな	みやち ひろこ	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当教員名	宮地博子	授業形態・修得単位	実習・1単位
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用
		実務家教員担当科目	
授業のテーマ	栄養教育マネジメントに必要な知識と技術を習得する。		
授業概要	対象者（個人または集団）における栄養教育の計画立案・教材作成・プレゼンスキルを修得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食事調査結果から課題の抽出ができる。</li> <li>2. 対象者の課題から改善するための栄養教育計画を作成することができる。</li> <li>3. 栄養教育に必要な教材・媒体の作成ができる。</li> <li>4. 栄養教育の実施から、プレゼンテーションスキルを修得する。</li> <li>5. 実施した栄養教育に対して意見交換を行い、評価することができる。</li> </ol>		
授業時間外の学習	事前学修：事前に次回の実習内容について関連する資料を調べておくこと（30分） 事後学修：教材・媒体などの作成（30分）		
履修条件	栄養指導論Ⅰの単位を修得していること、栄養指導論Ⅱを履修していることが望ましい。		
授業計画			
第1回	テーマ：ガイダンス 食事調査①（食事摂取基準の算出、秤量法についての説明）		
第2回	テーマ：食事調査② 食物摂取状況調査の栄養価計算		
第3回	テーマ：食事調査③ 身体活動レベルの算出		
第4回	テーマ：食事調査④ 栄養アセスメント		
第5回	テーマ：食事調査⑤ 調査結果の栄養診断・栄養目標の設定・栄養介入（計画）・（実施）計画の作成		
第6回	テーマ：食事調査⑥ 報告書の作成		
第7回	テーマ：幼児を対象とした栄養教育①（講義、説明）		
第8回	テーマ：幼児を対象とした栄養教育②（発表準備）		
第9回	テーマ：幼児を対象とした栄養教育③（発表）		
第10回	テーマ：ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育 高齢期①（ポスター作成）		
第11回	テーマ：ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育 高齢期②（ポスター評価）		
第12回	テーマ：ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育 乳幼児①（テーマ設定・教育プログラムの作成）		
第13回	テーマ：ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育 乳幼児②（学習指導案の作成）		
第14回	テーマ：ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育 乳幼児③（教材・媒体の作成）		
第15回	テーマ：ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育 乳幼児④（発表の実施・評価）		
第16回	定期試験		
テキスト	武見ゆかり 他「健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論 第5版」 南江堂		
参考文献・資料	永井成美・赤松利恵「Visual 栄養学テキスト 栄養教育論 第2版」 中山書店		
成績評価の方法	実習の取り組み・発表・提出物（70%）、定期試験（30%）で総合的に評価する。 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。		
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	授業開始前・終了後に教室にて質問等受けます。		
受講生に望むこと・受講のルール	積極的に授業に参加すること。事前学修・事後学修の時間をとること。		